
望むのは

蚕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

望むのは

【Nコード】

N8488A

【作者名】

蚕

【あらすじ】

ある日のコナンと灰原の会話。不意に、妙な事を言った灰原。彼女は馬鹿げた遊びと言ったのが・・・

「ねえ、私と逃げない？」

それは、なんとも無い暑い夏の日だった。

阿笠と書かれた表札の家。

時計の針が重なって天を指し、落ちる影は深い。

忙しく蝉が鳴き、どこか遠くでクラクションの音が鳴っている。

リビングに、二つの小さな姿。

パソコンに向かっていた灰原が、本棚の前で立ち読みをしていたコナンに不意に声をかけた。

「……灰原？」

問われた言葉の真意が掴めない。

黒の組織を追い、元の戻ろうとしているのに。何故、そんな問いを

されるのか。

コナンは持っていた本を閉じ、灰原に向き直った。

「工藤君、そんな顔しないでよ。ただ、現実の話をしてるだけなんだから」

「現実って……。俺とお前が薬の副作用で」

「戻れなかったらどうするのかって聞いているのよ?」

知つたる事実を語ろうとしたコナンの言葉に、灰原の声が重なった。

そして、言われた言葉は考えたくもない可能性。

組織を見つけて、薬を見つけても。

無駄になる事も考えられるのだから。

大体、体が縮んだのも偶然の副作用。

では、その薬自体を見つけても、副作用を引き起こす確かなモノを見つけないてはならない。

それから、戻れるような薬を作って。

「工藤君だって、組織に元に戻る薬があるなんて思ってないんで

しょう？運よく、薬自体が見付ったとしても……かかる時間を考えたことあるの？」

マウスで実験しても、ソレは副作用を起こした人の体ではない。

もしかしたら、マウスでは反応が出ないかもしれないのだ。

人で反応が出たのだから、人で試するのが一番だろうが、そんな事が出来ぬ事などわかっている。

そうなれば、成分分析だけが頼りとなり、原因を突き止められるまで、どれ程時間がかかるだろうか。

もし、マウスで反応が出たとしても、其処から成分の分析をし、副作用を起こしたマウスで、更に実験を繰返す。

どちらにせよ、時間が掛かる。

それが本当に数ヶ月と言う短いものなのか、何十年と掛かるものなのか。

その時にならねば神とて分らない。

「江戸川として、何処まで成長するのかしらね。中学生になって、高校生になって」

「おいおい、ちょっと待てよ！！なんで其処まで話が飛ぶんだよ」

「……だからよ」

椅子に掛けていた灰原が立ち上がり、コナンにゆっくりと手を差し伸べた。

「成長期が来る前に、一緒に逃げない？工藤君」

どこか、自嘲的な笑み。

何時もの冷めた彼女の姿は無かった。

同じ秘密を共有する者として、同じ体験をしている者として。

秘密の無い生活を送るならば、互い以上の相手などいない。

江戸川コナンを工藤新一と知っている女。

宮野志保を灰原哀と知っている男。

もしも、薬が手に入らなかつたら、成長し続ける体。

「……灰原……」

コナンがそっと、灰原の手を掴もうと腕を伸ばすが

「冗談よ。あら、本気にしたの？」

触れるより先に、灰原の冷やかな言葉が投げかけられた。

見れば彼女の表情は常のソレに戻っていた。

「ちょっと退屈だったから馬鹿な事でも言おうと思っただけよ」

「たち悪い」

不快そうに歪められたコナンの顔。

灰原は柔らかく笑むと、コナンのあげられたままの腕を取った。

冷房で冷えたのだろう、灰原の冷たい指。

なのに、ほんのりと汗をかいている。

「薬、手に入ると良いわね……。工藤君」

そう言って灰原は、コナンの手を離し、背を向けて歩き出してしまった。

コナンは何かを言おうと、口を開くが言葉が出ない。

なんと声をかける？

薬の事を？それとも、話の事を？

どちらにせよ、言うてはいけない気がした。

冷房で冷えた体で汗をかくなど、極度の緊張状態の現れ。

灰原はあの言葉を紡ぐために、相当の緊張を強いられたと考えられる。

口では冗談などと言っていたが、本心は……………

大きな扉の奥に消え行く灰原の背を見つめながら、コナンは心内で自問する。

ともに生きるべきか

彼女を置いて生きるべきか……………

『一緒に

』

完

(後書き)

初めてコナンで夢以外を書きました。
なんだか微妙な気が・・・

お読みいただきましてありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8488a/>

望むのは

2011年1月28日02時32分発行